

ドイツ語中級履習者のための文法教材実例

— 受動態 —

森 清*

Ein Lehr exemplar der deutschen Grammatik für Fortgeschrittene

— Passiv —

MORI, Kiyoshi

1 はじめに

本教材は筆者がドイツ語を専攻もしくは副専攻とする学生、さらには、ドイツ語技能試験の1・2級受験を目指す学生等を対象に作成したものである。この教材はドイツ文法のうちの後半にあたると思われる文法事項から「受動態 Passiv」を実例として提示するものであるが、まだ不十分な箇所がある。特に、使用されるドイツ語の文や語句、さらには語彙選択の適正等々において、まだまだ不満足なところがあるがそれは朝野のご批判をいただければ幸甚である。筆者の重要な教育観点の一つとして、現在のドイツ語圏の人々が日常会話においてあるいは新聞、雑誌やテレビにおいて実際に使用しているドイツ語を教示して、それを学習する人々が習得することを目標としている。筆者が専門とする演劇や非日常的な聖書の言葉等をそのまま教材に資することは如何なるものであろうか。使用している例文はすべてそうした教育観点から適宜に選択しているので、少なくとも時代錯誤的なドイツ語の文や語句ではないことは保証される。しかしある状況や物語の中から抜き取られた文や語句が、このような文法教材に前後関係の文脈なしに挿入した場合の適応性は別の問題として残ると思われる。この観点は外国語を教えるときの重要な要素として教える側が常に留意しなければならない言語的な当為であろう。

2 [受動態] の教材実例

受動態は能動態を文法構造的には前提としています。後者が動作を行う能動体（人・事物）が主語として明確に表されるのに対して、前者は主語の人・事物の動作や事象が行われる様子を表す文形態です。よって本来は受動態において動作の主体（動作主）が一般的には表現されないのが普通だと言えるのです。しかし日本での英文法の教え方は受動態と能動態の書き替えが中心の課題であるかのような説明になっています。そのために受動態と能動態とは文の組立てが違うだけで、意味を同じくする文型であるかのごとき印象を与えます。しかし実際の会話のやりとりや文書では受動態と能動態の文は同じ意味や語感を共有しているではありません。本教材ではそうした受験ドイ

*鳥取大学教育地域科学部国際言語文化講座（F、シラー研究）

ツ語的な機械的説明は一通り行うにせよ、あくまで受動態とは何であるのか、能動態とはどのように異なった構造と意味をもっているのかを理解するようにも説明します。

1 受動態の基本構造

『～される／られる』を直訳とする受動態は《werden+過去分詞》で表されます。この形式からすでに英文法の〈be+過去分詞〉とは異なることに注目せねばなりません。この文型の受動態を後に出てくる別の受動態と区別して、「動作の受動態 Vorgangspassiv」と呼びます。というのは行われる動作や現われる事象がある時間軸において表現されているからです。例えば、「彼女はパーティに招待される」の受動文は、ある特定の時点における〈招待〉の動作現象を示しています。これを「動作受動」と言うのです。他方、ある動作や事象がなされ、その結果ある一定の時間が続く受動文の場合には「状態の受動 Zustandspassiv」と呼んで、「動作の受動」と区別することになっています。例えば、「彼女は半月前からパーティに招待されている」の文は、〈招待〉の事象が「半月間」にわたって時間的に持続しています。従って、「状態受動」文は、先の受動態形式を使わないで別の形式を使います。英文法とは違って2つの受動態をドイツ語は持つのです。

1-2 動作受動の作り方

動作の受動態そのものの作り方は難しいことはありません。むしろ完了形や分詞の文法項目で大活躍する「過去分詞」がここでも正確に発音できて、正しく綴れるかの方が問題なほどです。

受動態の人称変化の例示：

besuchen

ich werde....besucht wir werden....besucht

du wirst....besucht ihr werdetbesucht

er wirdbesucht sie werden....besucht

点線が示すようにまたもや枠構造がここにも見られます。

2 受動態の時制

受動態の文法だからと言って、これまでの時制が一部なくなるとか、新たに加わるとかは考えられません。受動態にも「現在」から「過去」を経て「未来」までの時制があります。ichとliebenを使って時制を以下に表示します。一部に「非」文法的だと誤解しそうな形式が見られます。

a 現在形 ich werdegeliebt

b 過去形 ich wurdegeliebt

c 未来形 ich werdegeliebt werden

d 現在完了形 ich bingeliebt worden

e 過去完了形 ich wargeliebt worden

f 未来完了形 ich werdegeliebt worden sein

a 現在形にはもう何も解説するものはありません。

b 過去形も wurde が正確に綴られ、人称語尾に注意する以外に何も補うものはありません。

c 未来形も作り方は問題がないはずなのです。ところが多少戸惑います。受動の werden と未来

形の werden が重複使用されることによる戸惑いです。前者の werden が未来の、後者の werden が受動の助動詞に文法論理上なります。しかしそのような区別はどうでもいいではないか、どのみち同じ werden なのだからと言いたいところです。しかしこの区別を押さえておかないと話法の助動詞が加わる受動態の現在形や過去形を勘違いすることがあります。例えば、現在形の müssen によって「私は愛されねばならない」の受動形式を、次のように誤ることがあります。

誤 ich werde.....geliebt müssen

受動態が werden+過去分詞だと思ふあまり、werden を最初に書いてしまう誤りです。未来形の助動詞と話法の助動詞は文法構造は同じですから、正しくは以下になります。

正 ich mußgeliebt werden 話法の助動詞

ich werde.....geliebt werden 未来の助動詞

- d 現在完了形の形式を見ますと、すぐには理解できないほどです。学習者がよく間違える形式を下にいくつか提示しておきましょう。

誤 ich werde.....geliebt haben

誤 ich habe.....geliebt werden

誤 ich habe.....lieben geworden

誤 ich bin.....lieben geworden

誤 ich bin.....geliebt geworden

このように誤りの文を書くとかえって混乱させるかもしれません。なかでも一番下の文は「正しい」ように思われがちです。

これから正しい形式の分析をします。まず現在完了形なので

現在形 ich werde.....geliebt

werden が現在完了形の主役になるのです。つまり lieben の現在完了形では「ない」ということです。そこで werden の過去分詞 geworden をまずは使うことにしましょう：

ich bin.....geliebt geworden

ところがこれは誤った文なのです。受動態に限り過去分詞は ge が取れて w o r d e n となります。

正 ich bin.....geliebt worden

- e 現在完了形が理解できれば、過去完了形は bin が war に変わるだけです。ge のついた geworden にすると前にある geliebt の ge というアクセントのない綴りが2重になって、発音上よくないからです。これは ge のつかない非分離動詞が前にきても、アクセントのない2重の状態は同じですから受動態の過去分詞は worden です。逆に言いますと worden は受動態の受動態たる象徴だと言えます。
- f 未来完了形もこの延長で考えると上記の形式になるのですが、いかにも複雑な印象です。ドイツ人にも同じでして、未来完了形は現在完了形で代用されうるという代用原則に従って、通常は現在完了形で表現されます。未来完了形はほとんど目にするここのない形式です。

2-2 補足

受動態の未来形が werden+過去分詞ということは、過去分詞形が不定詞と同じになる動詞では一見同じ形式になることがわかります。例えば er wird ...verlassen は、これだけを見ていると受動態

なのか未来形なのか判断がつかないのです。文法をよく意識していないと文の意味を誤ってしまいます。

☆ Sie wird inzwischen ihre Vergangenheit vergessen.

★ Sie wird inzwischen bestimmt vergessen.

☆は未来形であり、★が受動態です。「彼女は自分の過去をそのうちに忘れるであろう」「彼女はそのうちにきっと忘れ去られる」と意味が違います。不定詞と過去分詞が同じである verlassen, behalten, empfangen など多数に生じます。

3 能動態から受動態への書き替え

受動態は能動態のために存在するのではないとは最初に言いました。しかしここでは受験的な練習に対処するために、能動態から受動態へ書き替えるにはどのような原則や決まりがあるのかを簡条書きに説明します。

- (1) 能動文の4格目的語のみが受動文の主語1格になれる
 - (2) 能動文の主語1格は、受動文では von / durch / mit によって書き替えられる
 - (3) 能動文の不定代名詞である主語 man は受動態では、(2)が適用されずに von einem のような使い方をしない
 - (4) 能動態の3格目的語は受動態の主語1格になることはできない
 - (5) 能動文の時制は受動文でも同じ時制になる
 - (6) 能動文の1格・4格以外の他の語句は、受動文でそのままの形で残る
- (1)～(3)までを押さえておけば、残る3つは当り前のことを述べているにすぎません。能動文と受動文の例文を対照しながら原則を考えます。

Sie schenkt mir eine schöne Schüssel. 彼女は私に美しい深皿を贈る

⇒ Eine schöne Schüssel wird mir von ihr geschenkt.

(1)は使用する動詞の性格が影響することを教えています。受動態に使われる動詞は4格を取る動詞に限られます。即ち他動詞が受動態を作ります。従って schenken は受動態の資格があります。しかし英語では受動態の資格があった help が、そのドイツ語 helfen には資格なしになるのです。(なお、実際には helfen の受動態があるが、これは後述する。)次は(3)の説明です。英語でも、they や people のような実体のない動作主は、受動態では明示されません。ドイツ語においても、不定代名詞 man は削除されます。また Leute や sie (彼ら)も場合によっては削除されますが、これは大問題ではありません。(4)は、すでに例文における mir がそのままの形で存続していることを言っています。英語では、例えば：

I give him my watch.

直接目的語 my watch だけでなく、間接目的語 him を使った受動文を作れます。しかし、ドイツ語は3格の目的語は受動主語になれないというのが(4)原則の強調しているところです。(5)(6)は当り前の原則です。能動文が現在形なら、受動文も現在形で書き改めます。未来形なら未来形です。また1格と4格と動詞を除くと、原則として他の語句要素はそのまま受動文の中に残ります。

(2)が(1)と並ぶ重大原則です。能動文の主語1格が、受動文中に動作主として表されるには、「～によって」の von, durch, mit が必要となります。とりわけ von と durch の区別が問題となります。一般的な説明によりますと、およそ次のようになります。

- ① von:動作主体による直接的な媒介。主に「人」に使う
- ② durch:動作の原因そのものが動作主体となる媒介者・物
- ③ mit:動作行為における手段や媒体を表現する

しかし、このような定義によって実践的に動作主のための前置詞が区別できることは難しいでしょう。後に再び解説しますので、ここでは上記の3区分の原則に頼ることにします。その結果、圧倒的多数の場合において von が使われます。von を使っておれば間違いないとさえ言えます。durch に伴われる動作主は現実には限定されます。一応以下の名詞が durch を取るとみなして使うと実践的です。

Erdbeben, Krieg, Bombe, Sturm, Taifun, Zufall, Bote, Sendung
地震 戦争 爆弾 嵐 台風 偶然 使者 放送

同じく mit を取る動作主も以下の名詞だとまずは機械的に選択することになります。

Schnee, Wolken, Blume, Schmuck
雪 雲 花 飾り

以上の6原則にならうと、能動態 ⇨ 受動態ができます。

Er erklärt mir alles besänftigend. 彼は私にすべてを説明して安心させる

⇨ Alles wird mir von ihm besänftigend erklärt.

現在形の受動態です。典型的な von による用法です。

Man hat mich heute dreimal angerufen. 今日3度も電話がかかってきた

⇨ Ich bin heute dreimal angerufen worden.

現在完了形の受動態であり、(3)原則により man は受動態では消えます。

Die Fernsehsendungen müssen seine Unschuld klar und deutlich sagen.

テレビ放送は彼の無実をはっきりと言わねばならない

⇨ Seine Unschuld muß durch die Fernsehsendungen klar und deutlich gesagt werden.

彼の無実がテレビ放送を通してはっきりと言われる必要がある

話法の助動詞が入った受動態です。durch を使っていますが和文に注目してください。能動文では放送会社自体に彼が受けた被害を正す義務がある語感を与えます。一方、受動態では彼の無実を知らせる機関としてテレビ放送が考えられるという語感が出ています。このように今は機械的に書き替えています。それでも意味内容上の違いが早くも出ていることがわかります。能動態と受動態が「違う」ことのきれいな例文です。

Ein weites Regenband bedeckt in dieser Saison Deutschland.

広い雨の帯がこの時期はドイツをおおう

⇨ Deutschland wird in dieser Saison mit einem weiten Regenband bedeckt.

mit の支配を受けるのはこれこれの名詞だと先にリストをあげましたが、本当は正確な言い方ではありません。本来はどの動詞と結びつくようになるのかの視点を入れねばなりません。例文の Regenband でも、「ヨーロッパは現在、この雨の帯によって東西に分断されている」では、mit dem Regenband ではおかしいです。von dem Regenband とすべきです。従って、mit の本来的な働きは「山が雪でおおわれる」とか「床の間が花で飾られる」とかの物が重なる状態、かぶさる状態に使われると考えてください。

次の2例文は格との関係で注意しないといけません。

☆ Man nannte den Mann einen verdammten Saturnboten.

⇒ Der Mann wurde ein verdammter Saturnbote genannt. その男性は呪われた悪魔の使者と呼ばれた

★ Er sieht mich als seinen größten Rivalen an.

⇒ Ich werde von ihm als sein größter Rivale angesehen. 私は彼には最大のライバルだとみなされる
 ☆の場合, nennenが4格目的語を同時に2つ支配します。それを受動態にする場合は, 意味論から必ず前者の4格目的語が主語になります。それが受動態によって主語に転じた場合, もう一方の目的語は受動態の中で4格目的語のままいることは文法上できません。よって, 主語と同格の1格にします。同じことが★にも適用されます。alsは格支配を持たず, alsの後ろの格は文構造の中で決まります。例文の場合は能動文がmichの同格で4格ですが, 受動文になるとichと同じ1格となります。以上が公式通りの書き替えの説明です。

4 動作主体

受験的な書き替えの次元を離れて, ドイツ語そのものの有する「動作主体」を考えてみます。動作主体がvon, durch, mitだと分けしましたが, 本当はそれは本質的な区別ではありません。ここでは受験ドイツ語を離れて少し本格的な説明をします。

○ Ich liebe sie. ● Der Krieg zerstörte die Stadt.

を受動態に改めると:

○ Sie wird von mir geliebt.

● Die Stadt wurde durch den Krieg zerstört.

となるのは「教科書文法」的な次元における正解にすぎません。この単語にvonだとか, あの単語はdurchだとか決めてかかるのは人為的です。むしろこれら前置詞がもともと有している意味に忠実に照らしながら使い分けるのが正しいです。そして能動態から受動態が作られるという機械的な意味からは受動文における動作主体は1つしか考えられないわけですが, しかし実際には動作主体は2個あってもよい受動文があります。その際にこそ動作主体を導く前置詞が, その本来有する機能が発揮されるのです。vonは〈から〉という直接仲介, durchは〈通して〉という間接媒介, mitは〈でもって〉という間接手段が三者の違いとなって重複使用されます。例えば:

Ich wurde von meinem Freund durch seinen Amtskollegen davon verständigt.

私はその件で, 友人の仕事仲間を通して, 彼から伝え聞いた

Er wird oft von dem Studenten mit scharfen Fragen überfallen.

彼はよくその学生から鋭い質問攻めにあう

2つの例文は, 受動態と能動態の機械的な変換にすぎないことを反証しています。即ち受動態が能動態から作られるのであるならば, 一つの文の中に能動主体が二つもあってはならないし, これでは同時に能動態に書き直すことができなくなります。また, vonは主に人に使われる動作主体を表すなどという公式的な原則も越えています。ですから同じ動作主体でも前置詞をそれぞれ選択することが可能です。例えば:

Er wurde von den Freunden überzeugt.

Er wurde durch die Freunde überzeugt.

Die Straße wurde von dem Regen überschwemmt.

Die Straße wurde durch den Regen überschwemmt.

(例文は Helbig/Buscha 文法より引用)^①

前置詞が異なっても、両文ともそれぞれ「彼は友人たちに納得させられた」「道路は雨で水びたしになった」のです。前置詞による表面的な意味上の違いはないのです。しかし前置詞の本来的な働きが、似たような文章に微妙なニュアンスの違いを示しています。von の場合は「から」という直接的な働きによって彼が納得させられ道路は氾濫するのですが、durch だと間接的な仲介のイメージが濃くなります。

さらに別角度から「教科書文法」的な処理の限界が明らかになると思われます。能動態の1格が受動態の動作主体だと書き替え公式は教えるのですが、仮にこれを絶対的な規範だとすると、次の文における受動文は能動文との関係で教科書的な変換ができるのでしょうか。

Das Gemälde wurde mit einem Pinsel gemalt. その絵画は画筆で描かれた
 Ich werde mit einer Peitsche geschlagen. 私はむちでたたかれる
 Meine Schrift wird mit Luftpost abgeschickt. 私の著書は航空便で発送されます
 Die Tatsache wurde durch Mausversuche richtig nachgewiesen.

その事実がねずみの実験で正しく証明された

これらの受動文は、下線部を動作主体とみなしてそれを主語1格にした能動文に作り換えるわけにはいきません。これら4文は確実に受動文では明らかにされていない「人間」が能動文にした場合の主語1格にならねばなりません。そしてそれらの動作主体が受動文の中にないということは、そもそもそのような動作主体を受動文が必要としなかった必然があったのです。それを無理に能動文に改めることは非現実的です。教科書的な言い方を逆用すると、例文はすべて von einem が省かれたとみなさないと能動文に直すことができなくなります。それとも、まさか、以下のような突然の主語を置くことで受動態と能動態の交換をそれでも守ろうというのでしょうか。

David Casper Friedrich malte das Gemälde mit einem Pinsel.
Mein Privatlehrer schlägt mich mit einer Peitsche.
Mein netter Kollege schickt meine Schrift mit Luftpost ab.
Die deutsche Wissenschaftler wiesen die Tatsache durch Mausversuche richtig nach.

下線部の主語は「正しい」ことではあっても、受動態から能動態に「変換」したとは言えないことは明らかなのです。

5 受動態にできない動詞と文型

書き替えの原則にならえば、4格を取る他動詞であれば動作受動態を作ることが無制限にできるとは誰も思わないでしょう。次のごくごく普通の文を最初に提示しただけで、文型の書き替えを許す感覚にはならないことが誰でもわかるのではないのでしょうか。

Der Knoblauch kostete 80 Pfennig. このニンニクは80ペニヒした

誤 80 Pfennig wurde von dem Knoblauch gekostet.

① 話法の助動詞に準ずる動詞

Er sieht sie von einem Kreuzfahrtschiff an Land kommen. 1隻の巡礼船から彼女が上陸するのが見える
 Er läßt mich mit der repressiven Situation allein fertig werden.

彼は私に抑圧的な状況を克服することを一人でやらせる

この文の4格目的語を主語とする受動文にはできません。

② 再帰動詞

Sie will sich der Unannehmlichkeiten schnell entledigen.

彼女はこの不愉快なことに早く方をつけたいのです

まさか sich の 4 格を主語にしての受動態はさすがに思いつくことはできないはずですが。ただし、3 格再帰代名詞を取り「獲得」の意味がある再帰動詞は書き替えが可能です。その場合は sich が受動態では消去します。ただし動作受動の形で書き替えられるとは限りませんので、例文は控え目にします。何よりも生きたドイツ語でなくてははいけません。

Er hat sich reiche Kenntnisse darüber angeeignet. 男性はそれに関する豊かな知識を修得した

⇨ Reiche Kenntnisse darüber sind von ihm angeeignet worden.

Man muß sich einen Telegraphenschreiber möglichst schnell zulegen.

テレタイプができるだけすみやかに調達される必要がある

⇨ Ein Telegraphenschreiber muß möglichst schnell zugelegt werden.

③ 非人称動詞

Es hungert mich sehr. 私は大変空腹である

これも ② 同様に mich を主語に変えての受動態など動作主体では全然ない非人称主語 es の処理を少し考えただけでもわかることです。

④ 所有関係の動詞

Sie hat ein schlechtes Gewissen. 彼女は良心の呵責を覚える

Er bekam 3 Wochen Urlaub. 彼は 3 週間の休暇をもらった

Er besitzt ein paar Café in der Innenstadt. 彼は市内に数軒の喫茶店を所有している

haben, bekommen, erhalten, besitzen などの「持つ」概念を表す動詞は受動態を作ることはいないとされています。

⑤ 金額・有量容積を表す動詞

Geflügel kostet 4 DM pro Kilo. 鳥肉は 1 キロ 4 マルクである

Der Roman "Nach der verlorenen Zeit" von M. Proust umfaßt drei Bände.

M. プルーストの小説「失われし時を求めて」は 3 巻本である

Ein Flaschenwein enthält gewöhnlich 0,75 Liter. 瓶入りワインは普通 0.75 リットル入りである

Der Geldschein auf Klara Schumann gilt 100 Mark.

クララ・シューマンのお札は 100 マルク紙幣である

この種の文を並べていくと納得できると思います。kosten, wiegen, umfassen, enthalten, gelten (値打ちがある) などの他動詞は受動態を作ることはいけません。辞書にも普通「受動態なし」との記載があります。

⑥ その他の動詞

(1) es gibt の文は受動態に作り換えられません。

In meinem Keller gibt es eine ganze Menge Vorräte für diesen Winter.

地下室にはこの冬用にたくさんのたくわえがある

(2) kennen, wissen の 4 格目的語が思考内容や知識内容を表す場合は受動態を避けるべきでしょう。

Wir kennen Ihre Not. ご苦勞お察しいたします

Ich weiß nichts davon. それは全然知りません

(2) いわゆる「同族目的語」を取る動詞は受動態を作りません。同族目的語を少し説明しましょう。

例文

Sie träumt kürzlich einen gleichen Traum. 彼女は最近同じような夢をみる
 träumenとTraumは「夢」ということで同じです。「夢を夢見る」という一見同語反復になる言い方ですが、このような言い方をする場合は、名詞の方に形容詞がついて、einen bösen Traum (悪い夢)のような表現をしたいからです。そこでこうした同族目的語を受動態の主語1格とする書き替えはできません。同族目的語は質の高い文に使われますから、ぜひ習得しておきたい事項です。以下にいくつかの同族目的語の文を紹介しています。

Er kämpft einen schweren Kampf. 彼はつらい戦いをする

Sie hat das ganze Jahr hindurch ein erfolgreiches Leben gelebt

彼女はその年はずっとやることなすことがうまくいった生活だった

Johann Wolfgang von Goethe hat 1832 mit 82 Jahren den ewigen Schlaf geschlafen.

ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテは82才で永遠の眠りについた

Ab morgen wird sie einen gemäßigten Gang gehen.

明日からは彼女は穏やかな生活の歩みになるだろう

このような制限に言及してわかることは、受動態は決して能動態から人工的に移し替えただけのものではないこと、受動態は受動態として独立した自然な無理のない文であること、原則にがんじがらめに拘束された練習問題的な「～される／られる」文では単にないことを強く指示していることです。

6-1 自動詞の受動態

4格のみが受動態の1格主語になるということは必然的に他動詞を前提とすることになりますから、本来表題は成り立たないはずですが、従ってここでの受動態とはまずは人工的な文法的な処置がなされた結果の受動態となります。言葉を換えていいますと普通の言語感覚では受動態にする必然性がない自動詞をあえて受動態にすることは、何かそこに特別な意義を込めていることとなります。しかし、まずは受動態への転換の形式を説明します。

Mein Freund hilft mir nett. 友人は親切にも私を助けてくれる

⇨Es wird mir von meinem Freund nett geholfen.

helfenは3格を取る自動詞ですから、能動文の4格を持ってきようがありません。従って形式上でesを受動文の1格主語にします。それから先の変換手続きは動作の受動態と同じです。ただしこのような処理はいかにも人為的であり、日常会話においては一般的ではありません。ほとんどは主語以外のものが文頭に移って、その結果実体のないesが消去されることとなります。

➡Mir wird von meinem Freund nett geholfen.

もう2つ例文をあげると、変換そのものは理解できるでしょう。

Heute trinkt man überm Walzertanzen. ワルツを踊りながら今日は飲む

⇨Es wird heute überm Walzertanzen getrunken.

➡Heute wird überm Walzertanzen getrunken.

Man kämpfte gegen die Hungernot. 飢餓克服との戦いがなされた

⇨Es wurde gegen die Hungernot gekämpft.

➡Gegen die Hungernot wurde gekämpft.

6-2 自動詞受動の意義

言葉の本来の性質から見ても受動態が能動態とまったく同じ意味作用しか持たないものならば人間の言語はそのような二重の手間はしなかったでしょう。自動詞の受動態とは何なのでしょう。自動詞の受動態とは、能動文の主語が消えて受動文のesさえも消えるということですから、能動態における主語として働いた人間の重要性が受動態では断然弱まり、しかも主語がなくなってしまうから重心は動詞や他の文要素に移ります。その結果、動作現象をさながら〈自然現象〉のように表現することになります。ですから受動態における動作主とは自然現象的な働きとは矛盾しますので、実際には動作主はないままか、仮にあったとしてもniemandのような漠然とした主体に限られます。

自然現象的な意味と定義したのですからこの意味に逆行する能動態は受動態にすることは避けねばなりません。例えば次の例文です。

Die Sonne geht wunderschön unter. 太陽が美しく沈む

まさしく自然現象の行為を受動態に改めるのは誤りです。こうして見ていきますと「自動詞」の意味内容によって受動態にされる動詞が限定されることがわかります。どういう自動詞なのかはそう簡単に列挙できません。しかし実際に使われた自動詞の受動文を調べていきますと、「行く」関係の自動詞は〈自然現象〉の度合いが強いことは理解できますので、gehen, fahren, kommenなどが受動態を作るのではないと言えましょう。権威あるHelbig/Buschaの現代文法書^②によりますと、次の自動詞が受動態には適さないとしています。

(1) 現在完了形でseinを取る自動詞

Er ist bei einem Jubiläum dem gewesenen Lehrer begegnet.

私はある記念祭でかつて教師をしていた人にであった

(2) 前置詞の後の名詞が主語と同じ再帰代名詞を取った場合の自動詞

Er rechnet letzten Endes mit sich selbst. 彼は結局自分のことしか頼れない

(3) 行為性のない主語を取り、ある種の関係だけを表現する自動詞

entsprechen, fehlen, gefallen, gehören, schmecken, bedürfen,
bestehen in/aus, neigen zu, riechen nach, aussehen

Die Reisebeschreibung gefällt mir gut. この紀行文は私はたいへん気に入りました

Die Hauptsache besteht in seiner bornierten Haltung. この本質は彼の偏狭な態度にある
ただしこのように分析してもやはり日本人にはどういう自動詞が受動態を作るのかの実践的な判断は難しいと思われます。ここでは中級レベルのドイツ語修得の目標から知っていることがいいと思われる自動詞をリストアップすることで、これからの実践的な受動態の使用の参考としてください。

helfen, arbeiten, tanzen, trinken, streiken, nachdenken, kämpfen, hinweisen, morden, schießen,
warten, glauben, antworten, sorgen, gedenken, zustimmen

これらの自動詞は能動態において「人」を取るのですが、この自動詞が受動態化されると「誰」ではなく、「何」がなされのが前面に出ることです。よって動作主が受動態に明示されることはごく少数に限られることになります。

Es wird darauf hingewiesen, daß die Zeitangaben erheblich von der Mitteilung meiner

Experten abweichen. 時代表示が私の専門家の報告とは著しく離れていることが指摘される
仮主語esが省かれずに使用されています。「誰」が指摘しているのが重心ではなく、どういう内

容が指摘される必要があるかが、受動態にすることで明確に打ち出されています。もう一例：

Wir kennen der Völkergemeinschaft nicht in den Arm fallen beim Durchsetzung des morarischen Ziels, daß dort nicht getötet wird.

人が殺されることはあってはならないという道徳的な目標を貫くときに、しかし、私たちは民族共同体を阻止することはできないのです

この例の töten は実は明らかに他動詞です。しかし、4格目的語を取ることなく、自動詞的に使われています。そして、和訳を見るとわかるように、「誰が誰を殺す」のかは重要ではなく、「殺される」ことをめぐる次元が問われています。こうした場合に自動詞の受動態が発生します。

6-3 自動詞受動による「促し」の口調

例文の中にすでに自動詞の受動態の本当の目的が見えています。例えば、上述の hingewiesen は「指摘される」ことがアピールされています。このように能動態ならばその雰囲気のでにくい文を自動詞の受動態にすることによってアピールできます。これは論理的に自然なことであり、「誰」が重点ではなく、「何がなされる」のが重点なのかを受動態が表しており、さらにまた話者の主観的な要求や願いが込められているとすると、当然に期待感が出ます。この事情を Duden 文法は次の言葉で明らかにしています^④。自動詞の受動態とは：

"als Tätigkeiten des Menschen (oder doch lebender Wesen) aufgefaßt werden könne"

人間（もしくはせいぜい生き物）の行為として把握されうる

その上で、「人間の行為」が全面に出される結果：

Das werden-Passiv der intransitiven Verben hat kaum noch eine "passivische"

Bedeutung. Ja, es kann sogar eine energische Aufforderung ausdrücken.

自動詞の動作受動態は「受動的」な意味をもうほとんど有しない。

精力的な促しを表現することさえも十分にありえるのである

このような解説の例文として、以下の例文をあげています。

a Es wird hiergeblieben!

b Jetzt wird aber geschlafen!

「精力的な促し」が発話者により強調されると、実質的には命令口調の意味が生じます。a は『おい、ここにとどまるんだ!』、b は『さあさあいいかげんに眠るんだぞ!』と訳せる〈精力的な促し〉が雰囲気に出ています。〈誰が〉ではなく、〈何が〉が自然現象のごとくなされるべきという促しが、自動詞の受動態によって表されます。これは、「過去分詞」の文法項目を説明をする際に過去分詞による命令が表現できるとして、

Aufgestanden! 起きた起きた!

Hiergeblieben! ここにとどまるんだ!

Aufgepaßt! 気をつけるのだぞ!

などの例をあげますが、この元をただすと自動詞の受動態に到達します。3つの動詞が示しますように、これらは皆、自動詞なのです。ここには自動詞の単独使用による「精力的な促し」が実に簡潔に表われています。このように自動詞の受動態には発話者の意志的なアピールが込められると言えます。ここでもまた受動態が能動態の機械的な書き換えではないことが認められます。

7-1 状態の受動態 Zustandspassiv

受動態には2つの型があり、「動作受動」に対するもうひとつの受動態は「状態の受動態」と呼ばれます。まず次の簡単な比較をしましょう。

a Das Ei wird gekocht.

b Das Ei ist gekocht.

aは動作受動であり、bが状態受動です。aがある時点で玉子がゆでられるのに対して、bはすでにゆでられた状態がある一定期間持続しています。その場合に《sein＋他動詞の過去分詞》を適用します。

7-2 状態受動の時制

動作受動のときと同じく時制を先の例文で示します。

現在 Das Ei ist gekocht. 玉子がゆでてある

過去 Das Ei war gekocht. 玉子がゆでてあった

未来 Das Ei wird gekocht sein.

受動の状態が存続する、あるいは過去のある時間に存続したのですからの現在形との過去形は自然な姿であり、その意味も素直にできます。しかし、の未来形はどうでしょう。未来とは将来のある時点において動作がなされることですから、本来ならば未来形と状態受動は異質の関係にあるとみなせます。けれども未来形とは「推量・推測」に使用される用法でした。未来形の状態受動とは〈～状態ではなかるうか〉という推量を意味します。そうしますと「完了」と状態受動の関連性が薄いのは理解できます。完了とは動作のある時点における結果・終了を指すのですから、状態受動態は現実的には3時制しかないと言えるわけです。よって現在完了形の状態受動を説明する必要はないので省くことにします。

7-3 状態受動の動作主

状態の受動態とはそもそもが受動的な行為がある動作主によって引き起こされた後の継続的な意味を表しているのですから、その動作主を状態受動に明示することは意味論的に無理があると言えます。従ってほとんどの場合に動作主は挿入されません。しかし動作主を状態受動が示し得る場合もなくはありません。ただしそれがどういう文法論理によって導かれるのかは難しい話であり、外国語を学ぶ者としては実際の文の中で使われているものを整理して保存しておくことが実践的でしょう。まずは、普通の状態受動の例文を紹介します。

Auf dem Zeitungsfoto ist sein Plakattafel abgebildet. 新聞の写真には彼のプラカード板がでている
Damals waren im Geschäft viele Übersiedler aus der DDR angestellt.

当時店には東ドイツからの移住者がたくさん雇用されていた

In der Ecke waren — so das herabhängende Plakat -Sardinen, das Fleisch der Krabben und Muscheln gestapelt.

隅にはぶらさがった張り紙に書いてあるところによると、イワシや、カニ、貝の肉が山積みになっていた
動作主が示せる例としてHelbig/Buscha文法書から2つの動詞を取り、それを使った例文をあげます⁽⁴⁾。

Schnellstraßen sind gewöhnlich von Lampen beleuchtet.

高速道路は普通ランプで照らしだされている

Der Hausarzt ist von der Familie beansprucht.

主治医はその家族から頼られている

さらに、実際にドイツ人が書いた文から引用しましょう。

Die Anfänge einer Lietartur der Bundesrepublik waren charakterisiert durch den Versuch, ganz ohne die Tradition der Weimarer Republik auszukommen.

ドイツ連邦共和国の初期の頃の文学には、ワイマル共和国の伝統などまったく介さないですます試みに特徴づけられていた

上例は確かに動作主を有しているといえますが、下例2つは動作主というには意味論上は弱い結びつきだと言えましょう。とにかく状態受動における動作主の実例を普通の書物から見いだすことは容易でないほど使用が極端に制限されています。

このように動作主のない状態受動態は動詞が持っていた動作的な意味作用を弱くしていく結果、もうほとんど純粹の形容詞とみなした方が理解しやすい例も少なくありません。

Das Fenster ist geöffnet. その窓は開いている

Ich bin beteiligt. 私は参加しています

さらに「時間経過」の語句、それは専ら副詞句でありましょうが、状態受動では動作受動と違って書き加えることができます。

Das Geschäft war gewöhnlich bis 22 Uhr geöffnet. お店は普段は22時まで開いていた

Ich bin schon drei Tage beteiligt. 私はもう3日間参加しています

7-4 動詞の制限的用法

受動態を作れる動詞には制限があったのですが、これは当然のことながら状態受動にも適用されることになります。状態受動は動作受動が成り立つ時点から始まると文法上は言えますので、この文脈から論理的なことが導きだせます。つまり他動詞の意味の性質が何よりも動作的な性質でなければ動作受動ができませんから、状態受動においても使用される他動詞は動作的でないといけません。逆に言うともともと継続的な性質を持つ他動詞は状態受動態を作ることができないと言えましょう。それら継続的な性質を持つ他動詞はわざわざ受動態にする必要がないのです。そこで継続的な動詞を判別することが次の課題になりますが、これは難しい作業です。そのへの追求はここではしないで、これに該当する動詞をあげるにとどめましょう。

brauchen, erinnern, hindern, loben, senden, zeigen, befragen, bewundern, bieten, streichen, beglückwünschen, schulden

これらの他動詞は Helbig/Buscha 文法書から孫引きしたのですが⁶⁾、誠に判別が難しいと思わざるをえないものが見られます。最初の brauchen や erinnern などは分かり易いですが、hindern, senden などは継続的な性質になじむのがなかなか納得がいかないと考えられます。あくまでそうなんだと思うだけにしましょう。さらに動作受動を作れなかった大部分の再帰動詞も論理的にできないことになります。

自動詞はどうでしょう。動作受動で大幅な使用制限があった自動詞が状態受動を作る資格はますます小さいものです。Duden 文法では全く触れていません。Helbig/Buscha 文法では⁶⁾、3格目的語を要求する自動詞には可能な旨が説明されています。これは考えると自然なことであり、他動詞ではないにせよ3格という目的語を要求する自動詞は実質的には他動詞と同質だとみなしてよいからです。ですからすぐに思いつく自動詞は helfen ということになります。

Dem Freund ist damit geholfen. その友達はそうすることで助けられている

この他の自動詞の例文をあと3つ紹介するだけで説明を終えます。

Mit der pünktlichen Planerfüllung ist unserem Staat geützt. 時間通りの計画実行は国には有効である
Der Königin ist auf dem Porträt geschmeichelt. 肖像画は女王を現実以上によく描いている

Wenig ist ihm gedient. 彼の役に立っているものはない

自動詞の受動は仮主語の es がいますが、文例はすべて es を消去する文構造になっています。これもまた動作受動におけると同じです。

7-5 状態受動と形容詞的過去分詞

状態受動を学んでいきますと、文の形式から見てすぐに気づくことは過去分詞の用法と重なることです。即ち、sein...過去分詞の型は状態受動などという難しい術語を使わなくともいくらでも我々は使ってきました。その例文だって、きわめて初級的なものでできます。

Der Symphoniekomponist ist begabt. この交響曲作曲家は才能がある

Das Mädchen ist jetzt verliebt. その女性は今恋している

Die Scheinehe war mir schon längst bewußt. 偽装結婚だってことはとっくの昔に私は知っていた

Ich bin verheiratet. 私は結婚しております

これらの文は状態受動と言えるのでしょうか。言えないとは言いきれません。確かに、begabt, verliebt, bewußt, verheiratet の状態が認められるからです。しかしこれらは真の状態受動とは違うところがあります。これを証明するのは簡単です。例えば、次の状態受動文と比較しましょう。

Der Renegat ist in dem Roman lieber satirisch gezeichnet.

転向者はその小説ではむしろ風刺気味に描かれている

Dort ist der Pfarrer begraben.

そこに牧師が埋葬されている

上のグループと下の2文は、なるほど形式的には状態受動で共通しているように見えても全然違います。文法構造から考えるとわかることで、状態受動態は動作受動文から派生したと言えるわけですから、下の2文は動作受動に、勿論、意味は多少変化しますが戻すことができます。

Der Renegat ist in dem Roman lieber satirisch gezeichnet worden

Dort ist der Pfarrer begraben worden.

そしてこれまた自然ですが、動作受動文を能動文に戻すことも引き続いてできます。しかしその作業は省きます。これに対して上のグループは動作受動文に戻すことはできません。

Der Symphoniekomponist ist begabt worden.

Das Mädchen ist jetzt verliebt worden.

Die Scheinehe war mir schon längst bewußt worden.

Ich bin verheiratet worden.

これらの変換は誤りです。その証拠にこれらの誤りの文を能動文に直すことができないからです。わかりやすい例である2つの文を次のように能動文にすることは文法からしてできません。

Man hat jetzt das Mädchen verliebt.

Man hat mich verheiratet.

敢えて変換しようとするれば、違う仲間の動詞に変形させてしなければなりません。

Man hat mich geheiratet.

Man hat jetzt das Mädchen geliebt.

ただし上のグループなのか下の状態受動なのかかわからない、つまり両方を兼ねている過去分詞もあります。典例は schicken (派遣する) です：

Der Ingenieur ist geschickt.

文にこれ以上の形容する語句がなければどちらの用法なのかわかりません。下のグループの状態受動だと考えると誰かによって派遣された技師であるとの意味になりましょう。即ち、動作受動、さらには能動文に直せませす。

Der Ingenieur ist geschickt worden.

Man hat den Ingenieur geschickt.

しかし geschickt には派遣されるほどの〈器用な〉という意味の形容詞的な述語用法もあります。その場合は上のグループと一緒に動作受動に戻せない文型となります。

こういう型はいくらでもあげようと思えばできます。しかしそういう文法説明は文法談義としては効果的ですが、実践的にはあまり有益とは言えません。つまり geschickt にしても、辞書を引くと単独の見出語でありますし、どちらの用法かは他の語句や前後の文脈で判断できますし、そもそも状態受動をめぐる細かい文法説明自体がドイツ語の修得に益が多いとは言えません。

8 状態受動文と能動の現在完了形文

sein...過去分詞という形式は、実はすでに修得した文法事項の中にもありました。形式が同じなために混同して誤解してしまう可能性がなきにしもあらずです。注意を促すためにも説明しましょう。

☆ Die Volksverhetzung ist vernünftigerweise gescheitert. 民衆扇動は懸命にも失敗した

★ Die Volksverhetzung ist systematisch geplant. 民衆扇動が組織的に計画されている

同じ〈sein+過去分詞〉であっても、☆は scheitern が sein を取る能動の現在完了形文です。★が状態受動文です。どのように判別するとよいのでしょうか。いくつかの手段があります。まずは文の構造を調べていくとわかります。これまでの説明からして状態受動は動作受動を通して最後は能動文にまで戻せませす。

★ Die Volksverhetzung ist seit mehreren Monaten systematisch geplant worden.

Man hat die Volksverhetzung systematisch geplant.

これに対して☆の文はそのような戻しが不可能です。

2つ目の手段は動詞の種類が違います。☆は言うまでもなく自動詞が前提になるからこそ完了の助動詞に sein が使えます。これに対して、★は原則として他動詞が受動態を作ります。

3つ目の手段は意味です。完了形と状態受動ではその文の表す意味が根本的に違います。もう一例紹介します。

☆ Es ist ihr schwergefallen, beim Unterricht den integrierten Schaltkreis gut zuverstehen.

講義で集積回路(IC)を理解することは彼女には難しかった

★ Eine enorme Menge Heroin ist schon bei der Polizei beschlagnahmt.

莫大な量の麻薬はすでに警察のもとに押収されている

[補足]

大事な表現の「生まれる」を知っておきたいものです。2種類の受動態があります。

a : Ich bin am 24. Juni in Duisburg geboren. 私は6月24日にドゥイスブルクに生まれました

b : Goethe wurde 1749 in Frankfurt am Main geboren.

ゲーテは1749年フランクフルト・アム・マインに生まれた

a は存命中の者に対して使います。なおこれは状態受動ではなく動作受動の現在完了形から worden

が省かれたものです。従って、ときとしてその完了形受動のまま使われることがあります。

Der Erdenbewohner ist bereits im Juli 1986 geboren worden.

この地上の住人は1986年7月に生まれた (R.Kunzeの日記より)

ここには完了形にすることによる「生まれる」動作を強調したいのでしょう。bは物故者に使うのが原則です。ただし事務的には存命者にも使うことがあります。なお、「生まれる」は日本語の使い方と同じく、「概念」にも使えますので、知っておくことは便利です。

Die Legende wurde in diesem Dorf geboren. その伝説はこの村で生まれた

Die Kultur der Scham wurde im Osten geboren. 恥の文化は東洋で生まれた

9 受動的表現

以上の解説で受動態は終わりました。しかし、「受動」と受動態は違うのでして受動的な意味を表現するのは受動態だけではありません。ドイツ語では他にもたくさんの文型による受動的表現があります。ここにまとめておきます。

① manによる不定人称文

受動的表現と言いましたがmanによる表現は外国人から見た受動的表現であって、ドイツ人にしてみれば能動的な文型です。我々日本人が邦訳するときmanをそのまま「人」と訳してはまずく、主語を隠して受動的に邦訳するとすっきりするという訳技術上のことです。とはいってもドイツ人にも不定のmanをたてることによって、自分を含めた一般人が普通に抱く感情が文全体に現れているという意味ではやはり純粋な能動文型とは違うという考えをもっています。

Man spricht in Oberitalien weit Deutsch. 北イタリアではドイツ語が広く話されている

Auf diese selbstverständliche Frage kann man genau richtig antworten.

こんな当り前の質問には実に正確に返答することができるはずだ
受動的表現とは言っても下文を無理に受動的な和訳を当てる必要はないでしょう。

② 再帰用法による表現

ここでは受動の意味形態がかなり強い文を紹介することだけにします。

I Beide deutsche Staaten vereinigen sich zu einem gesamtdeutschen Staat.

両ドイツ国家は一つの全ドイツ人の国家に統一される

II Ich lasse mir davon nicht die Freude verderben.

私はそのことのために楽しみをだいにしにされたくない

III In dem Zimmer arbeitet es sich sehr bequem. この部屋はたいへん快適に仕事がされる

Iは普通の再帰用法です。IIはlassenを伴って受動の許可もしくは使役になる再帰用法です。例文はsichが3格ですが多数派は4格の型でしょう。IIIは自動詞による再帰用法です。

③ sein + zu不定詞による表現

受動の可能、必然、義務や予定を意味します。

Was war da an Gegenständen des täglichen Gebrauchs zu sehen?

日々使うものでそこで見られたものは何があったか

Bei schönem Wetter ist der Halbinsel gut zu erkennen. 天気がいい日には、半島が見える

④ b a r / l i c hで終わる形容詞

形容詞はしばしばbar/lichで終わります。前者のbarは、中世ドイツ語では「担架」を意味して

いたもので、「かつぐ」の意味です。例えば動詞 *tragen* から形容詞を作りますと *tragbar* となり、「担ぎ運ぶ」のです。*tragbarer Fernsehapparat* (ポータブル・テレビ) というように使用されます。*bar* によってテレビは〈*tragen* される〉という受動的表現となります。このように～*bar* を活用することで受動的表現が簡単にできます。現代ドイツ語では漸増しているとの指摘がなされています。

Die Ware ist zahlbar nach Erhalt. 本品は後払い可

Die Lederschuhe sind ziemlich lange haltbar. 皮靴はかなり長期間長持ちする
～*lich* も動詞 (または名詞) の語幹につけると受動的表現が可能となることがあります。ただし、～*lich* のすべてが受動的表現にはなりません。重要な形容詞である *freundlich* ひとつ考えただけで十分でしょう。名詞に付加した *lich* 型は受動性は少数派であり、*bar* 型がそうであったように動詞の語幹に付加した場合に限定されると言うてよいでしょう。またそもそも「受動」という捉え方で *lich* 型形容詞を検討することは必ずしも実践的ではありません。最も重要な *lich* 型である *möglich* は「受動」かどうかなど意味がないからです。ここでの説明はあくまでも *lich* 型によって「受動的表現」ができることを明らかにしたにすぎません。

Diese Sache ist zerbrechlich. これはこわれやすい

Ihr diesmaliger Leichtsinn ist doch sträflich. あなたのこのたびの軽率さは罰するに値する

Ihr E-Mail war teilweise nicht leserlich. あなたのEメールは部分的に読めなかった

なお、*lich/bar* の他に現代ドイツ語では増加傾向にある *bel* 型は確実に受動的になります。

Ihr Vorschlag ist keineswegs akzeptabel.

あなたの提案はいずれのケースであっても受けつけられない

⑤ 過去分詞+特定動詞

受動態は4格をのみ受動文の主語にしました。そのために *schenken* や *geben*, *zahlen* のような「人の3格」と「物の4格」をとる動詞の場合、常に一方的に〈物〉を主語とした受動文しか作れないわけです。ですから、『本は彼に贈られる』という直訳的な日本語としてはぎこちない語感の文しか作れないこととなります：

Das Buch wird ihm geschenkt.

けれども〈人〉を主語にして受動的に表現したいと思うのは人間の自然な言語感覚です。こなれた日本語で、『彼は本を贈ってもらう』と言いますが、このような意味内容のときに使用される文型があります。例：

Er bekommt das Buch geschenkt.

これは明らかに一種の受動表現です。*er* を主語としながら、*bekommen* が4格の *das Buch* を取っています。そして *geschenkt* が〈贈られて〉という過去分詞として動詞の *bekommen* との共同作用により、*geschenkt* + *werden* を思わせる受動形式を作っています。こうした受動的文は日常会話においてしばしば重宝されます。これまでの文型による *Buch* の文はできても *ihm* の文は不可能であることへの、いわば変形受動態による転換と言えます。*bekommen* の代わりに口語では *erhalten*, *kriegen* を使うこともあります。*erhalten* は *bekommen* と同じ礼儀正しい、丁寧な語感ですが、*kriegen* となると「もらう/ありつく」という親しい口調がより強くなります。これは以下のような普通の能動文を紹介してその和訳を見るとわかるでしょう。

Er hat endlich eine Arbeit gekriegt. 彼はやっと仕事にありついた

Hei, ich kriegte von der Firma zwei Wochen Urlaub. おい, 会社から2週間の休暇をもらったぜ
そこで *erhalten/kriegen* を使った受動形式の例文を紹介します。

Sie kriegt die bekannten Abhandlungen per Eilpost geschickt.

彼女はその有名な論文を速達便で送ってもらう

Der Betreffende hat die bedeutendste Nachricht offiziell bestätigt erhalten.

当事者はその最重要な報道を公式に確認してもらった

例文が示すように erhalten は堅い感じの文に使われる傾向がありますが、堅いとか口語性とかはあまりない輪郭ですので気にすることはないでしょう。現代ドイツ語では次第に増加している用法です。

⑥ 特定動詞の受動性

例えば bleiben について、次のような例文があります：

Ein Bild bleibt in meinem Zimmer lange hängen.

一枚の絵が私の部屋には長いことかけたままにしてある

さて、状態受動を相当に学んできました。例：

Die Haustür ist seit langem geschlossen. 玄関のドアがずっと以前から閉められている

この両方の文型から、例えば『玄関のドアがずっと以前から閉まったままの状態である』を bleiben + 過去分詞でもって受動的に表現できるはずです：

Die Haustür bleibt seit langem geschlossen.

これは状態受動文の応用だと言えます。もっとも正統の状態受動型ですでに〈状態〉は十分に果たされていますからわざわざ bleiben を使って〈状態〉を強調することはないわけですが、言葉の多様性と理解することで知っておきましょう。

bleiben という状態機能の動詞が可能ならば他の同じ機能の動詞でもよいことになります。事実、

例文はドアが「立っている」イメージを表現することで stehen の文型も見られます：

Die Haustür steht seit langem geschlossen.

また Tür ではまずいですが、例えば、『この墓地には詩人の Heinrich Heine が埋葬されている』は liegen が可能な文型となりましょう：

Hier auf dem Friedhof liegt der Dichter Heinrich Heine begraben.

このような bleiben/stehen/liegen の変則的な受動文はかなり現実に使用されています。言葉は文法のみで規制されていません。人間の生きた言語活動がそうさせるのですから自然な勢いと言えます。例文を増やしていきましょう。

Das Geheimnis kann nicht verborgen bleiben. 秘密はいつか明るみにでる

Die Ausgleichung muß ihm überlassen bleiben. 調停作業は彼に任せておくほかはない

In ihrem Brief stand nichts darüber geschrieben.

彼女の手紙にはその件で何も書かれていなかった

Auf dem Fußboden lag er gemütlich ausgestreckt. 床に彼は気持ちよさそうに体を伸ばしていた

3番目の文からは初級的な文が思い出されます。

Heute steht nichts Neues in der Zeitung. 今日には新聞にはなにもニュースはない

これは変則的な状態受動型が元になっていると考えられます：

Heute steht nichts Neues in der Zeitung geschrieben.

「書かれて geschrieben, 新聞の中で記事が立っている stehen」と分析することができます。そうすると次々に同種の文が提供できます：

Die Zehn Gebote stehen in dem Alten Testament. 十戒は旧約聖書の言葉である

"Auf der schönen,blauen Donau" steht leider nicht auf dem Programm.

「美しく青きドナウ」は残念ながらプログラムに載っていない

Von der einseitigen Kündigung steht doch nichts in diesem Vertrag.

契約には一方的解雇通告はなんにもうたっておりませんよ

「言葉」とは「文法」では必ずしもないことを *stehen* や *bleiben* の ⑥ は明らかに教えていますし、①から⑥は、「受動」が「受動文」のみによって表現され尽くしているわけでも必ずしもないことを教えています。「れる・られる」が一直線に〈受動態による受動文〉に進むわけでは必ずしもないことを認識することは大事でしょう。

10 あとがき

これで受動態の文法説明を終わりとす。筆者は30数年のドイツ語指導の経験から、説明を理解すれば実際にドイツ語を使っている母語の人達の受動表現に関する文構造でわからないという事態はなくなるほど、ほとんどすべての受動表現を解説している。そして何度も強調しているように「言葉」は決して機械的な性質のものではなくもっと柔軟なものである。特に日本語から外国語（ドイツ語）を勉強するときには、日本語の感性に慣らされてつい外国語（ドイツ語）をながめる結果、外国語（ドイツ語）を日本語と同じ感覚で理解しようとする。そのために機械的な考え方に捕らわれてしまって、「れる・られる」だけが受動態であるかのようなイメージを抱いてしまう。そうなるともう外国語（ドイツ語）の表現がどこかで壁にあたって和製ドイツ語になってしまう。「受動態」の文法項目で使われた例文とその和訳をよく吟味して「受動表現」とは何なのかを考え、「受動態」が「能動態」の書き換えにすぎずに意味は両方とも同じであるとは決してならないことを理解してほしいものである。

注

- (1) Helbig&Buscha:Deutsche Grammatik, Ein Handbuch für den Ausländerunterricht, Langenscheidt Verlag Enzyklopädie/Leipzig, 16. Auflage, 1994, S.173
- (2) *ibid.*, S.172 - 173
- (3) Duden 4, Die Grammatik, Dudenverlag/Mannheim/Wien/Zürich, 4. Auflage, S.183
- (4) Helbig&Buscha:Deutsche Grammatik, S.180
- (5) *ibid.*, S.181
- (6) *ibid.*, S.181

主要参考文献

- * Gerhard Helbig/Joachim Buscha : Deutsche Grammatik, Langenscheidt Verlag Enzyklopädie/Leipzig, 1994
- * Günter Drosdowski (hg.): Duden 4, die Grammatik, Dudenverlag/Mannheim · Wien · Zürich, 1984
- * Duden, das große Wörterbuch der deutschen Sprache, herausgegeben und bearbeitet vom Wissenschaftlichen Rat und den Mitarbeitern der Dudenredaktion unter der Leitung von Günter Drosdowski (8 Bde.), Dudenverlag/Mannheim · Wien · Leipzig, 1993

